

国立国語研究所学術情報リポジトリ

〈著書紹介〉 田中牧郎
著『近代書き言葉はこうしてできた』

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-10-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田中, 牧郎 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00000759

田中牧郎 著

『近代書き言葉はこうしてできた』

そうだったんだ！日本語

2013年8月 岩波書店 B6判 212ページ 1700円＋税



田中 牧郎

1. この本の構成と意義

この本は、次の5章から成っています。

- 第1章 近代書き言葉の成立事情
- 第2章 口語体書き言葉の成立
- 第3章 言葉の栄枯盛衰
- 第4章 言葉の縄張り争い
- 第5章 現代書き言葉へ

国立国語研究所のプロジェクトの成果をまとめた、国立国語研究所（2005b）や田中ほか（2012）などで発表した内容を踏まえたところもありますが、全体を新たに書き下ろした本です。

この本の意義は、コーパスを使った日本語史の研究と、言文一致運動が収束した後の近代の書き言葉の成立史の研究という二つの領域を、新たに切り開いたところにあると考えています。

2. コーパスによる日本語史の研究として

この本は、国立国語研究所が2005年に公開した『太陽コーパス』（国立国語研究所2005a）を用いて近代日本語の書き言葉がどのようにできていったのかを研究したのですが、日本語の史的研究にコーパスを全面的に使ったはじめての本でもあります。

私が国立国語研究所に着任した1996年は、「コーパス」と呼べるような、これまでにない電子化資料を作ろうという機運が研究所のなかに生じ始めていたころでした。明治後期から大正期によく読まれた総合雑誌『太陽』については、「日本大語誌」として企画されていた用例大辞典に採るべき箇所が、誌面のコピーに印が付けられている状態にありました。これをもとに、用例を書き抜いて入力するのではなく、全文を入力してそこから自在に用例を引き出せるようなしかけを持つ『太陽コーパス』を設計し構築していくことが、新任の私に課せられた仕事でした。

それから10年近くをかけて構築した『太陽コーパス』は、作るのも大変でしたが、これを使った新しい研究例を示していくのにも工夫を要しました。単に電子的な索引として利用するだけではなく、資料全体の日本語の実態を確実に把握した上で、重要な個別の言語現象

にしっかりと焦点を合わせていけるような研究を目指しました。それがコーパスの真価を生かせる研究だと考えたからです。例えば、年次ごとの語種比率を示して、漢語の比率が減少していく大きな流れを確かめた上で、その流れの先を行くように急速に使われなくなる漢語や、流れに反してよく使われるようになる漢語を特定し、それらがなぜそのような動きをするのか、個々の用例に目を凝らして分析していきました。

3. 明治後期以後の書き言葉の成立史の研究として

これまでの近代語の書き言葉の研究は、明治中期までの言文一致運動がどのように展開したかという観点での研究が盛んでした。しかし、書き言葉が現代のような形になっていく変化は、明治後期になって大きく進みました。そして、明治後期以後の日本語を研究するには、多種多様な資料に目を通す必要があったことで、研究の実施には多大な困難がありました。ところが、多彩な執筆者によって書かれた、多様なジャンルの文章を取めた総合雑誌『太陽』を対象にした『太陽コーパス』を用いることで、その困難を克服することができるようになりました。

この本では、例えば、口語形式の文末語を網羅的に見ることで、その主流が「であります」から「である」に移行していく背景に、多様な文末辞を使い分けるようになる動きがあったことを明らかにしています。また、『太陽コーパス』全体に形態素解析を施したデータを集計することで、語彙全体の中で、その位置を変えていく語を抽出し、周辺語化していく語と基本語化していく語を特定し、近代的な語彙体系がどのように形成されていったかを解明しています。

●参考文献●

- 国立国語研究所(編)(2005a)『太陽コーパス—雑誌「太陽」日本語データベース』東京：博文館新社。
 国立国語研究所(編)(2005b)『雑誌「太陽」による確立期現代語の研究—「太陽コーパス」研究論文集』東京：博文館新社。
 田中牧郎ほか(2012)『近代語コーパス設計のための文献言語研究 成果報告書』(国立国語研究所共同研究報告 12-03) 東京：国立国語研究所。
http://www.ninjal.ac.jp/corpus_center/cmj/doc/

田中 牧郎 (たなか・まきろう)

国立国語研究所言語資源研究系准教授。文学修士(東北大学)。昭和女子大学講師、国立国語研究所研究員、同グループ長などを経て、2009年10月より現職。

主な著書・論文：『雑誌「太陽」による確立期現代語の研究—「太陽コーパス」研究論文集—』(共編著、博文館新社、2005)、『分かりやすく伝える外来語言い換え手引き』(共編著、ぎょうせい、2006)、『病院の言葉を分かりやすく—工夫の提案—』(共編著、勁草書房、2009)、『図解 日本の語彙』(共編著、三省堂、2011)、『外来語研究の新展開』(共編著、おうふう、2012)。

社会活動：日本語学会評議員、日本語学会『日本語学大辞典』編集委員主任、明治書院『日本語学』編集委員。